

「用語解説」

あ行

悪臭

不快なおいひの総称である。

典型七公害の一つであり、統計によると騒音に次いで多い生活公害である。また、悪臭は感覚公害で、悪臭物質の種類も人によってまちまちで一定の基準を決めるのは容易ではない。特有のおいひを持つ化学物質は40万にも達するといわれるが、化学的に見ると窒素と硫黄の化合物と高級脂肪酸が多い。

また、悪臭防止法は「不快なおいひの原因となり、生活環境を損なうおそれのある物質」（特定悪臭物質）として22種類の化学物質について規制している。

アンモニア性窒素

工場排水及びし尿等に含まれる有機窒素化合物の分解で生成され、アンモニウム塩あるいはアンモニア中の窒素のことである。

水質汚濁の一般指標として用いられている。

硫黄酸化物

SO_xと表記されることもあり、硫黄の酸化物の総称で、石油など硫黄分を含んだ燃料が燃焼した際に発生する。

その代表として、二酸化硫黄（SO₂）が挙げられる。

一時間値

大気中の汚染物質の測定において、正時（00分）から次の正時までの1時間の間に得られた測定値のことである。

一酸化炭素

炭素を含む物質の不完全燃焼により発生し、大気汚染の原因となる。主な発生源は自動車の排出ガスである。大気汚染に係る環境基準が定められている。

上乘せ排水基準

水質汚濁に係る各種の排水については、国が規制基準を定めているが、都道府県は特定の地域について、その自然的・社会的条件からの判断に基づき、国が定めた基準より厳しい基準を条例で定めることができる。これを一般に、上乘せ排水基準という。

エアカーテン

施設の出入り口等に気流の幕を作り、室内外の空気が混ざり合わないようにする装置のことである。

塩化水素

大気汚染防止法で有害物質及び特定物質に指定されている。主な発生源は化学工業と廃棄物焼却炉で、特に塩化ビニル樹脂の焼却時の発生が大きい。

塩化物イオン

水中に溶解している塩化物中の塩素分のことで、塩化ナトリウム、塩化カリウム、塩化カルシウム等として自然界に広く存在している。また、生活排水やし尿には塩化物が多量に含まれているため、水質汚濁の一般指標として用いられている。

汚泥再生処理センター

従来のし尿処理施設は、し尿・浄化槽汚泥の衛生処理のみを目的としていたが、循環型社会形成を推進するため、し尿汚泥に加えて、その他の有機性廃棄物をリサイクルする汚泥再生処理センターの整備に対して国から支援が受けられるようになった。

従来のし尿処理施設と異なる特徴は、①、②のとおりである。

①し尿及び浄化槽汚泥以外に生ごみ等の有機性廃棄物を併せて処理できる。

②発生メタンガスの有効利用、汚泥の堆肥化、燃料化等の設備を有している。

温室効果ガス

大気中の二酸化炭素及びメタン等のガスには、太陽からの熱が、地球から宇宙空間に放出するのを妨げ、結果的に地表を暖める働きがある。このような効果が高いガスのうち、京都議定書では、二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素、HFC類、PFC類、SF₆が削減対象として定められている。

か行

灰分

物が燃え尽きたあとに残る不燃性の鉱物質のことである。

環境影響評価

環境アセスメントとも呼ばれているが、英語のEnvironmental Impact Assessmentを和訳したものである。Assessmentは「査定する」という意味で、「環境に及ぼす影響の度合を見積もる」ことをいう。この手続きは、地域の環境情報を調査し、これら地域の環境要素に対して、開発行為がどの程度影響を与えるか予測（見積もり）を行い、事業者が計画している環境保全対策の実施で、影響を回避・低減できるか検討するものである。

事業者によって事前に収集できる情報には限りがあるため、地域の情報を広く提供してもらうなど、地域の意見を反映しながら、公害の防止、自然環境の保全、地球温暖化の防止、その他の環境保全の見地から適正な手続きが進められるよう定められた公の制度である。

環境基準

環境基本法（平成5年法律第91号）第16条に基づき、政府が定める環境保全上の目標であり、人の健康の保護や生活環境の保全上、維持されることが望ましい基準として、大気汚染、水質汚濁、土壌汚染、騒音等に関する環境基準が定められている。

環境騒音

観測しようとする場所におけるすべてを含めた騒音のことである。

逆転層

通常、気温は高度が上がるにつれて下降するが、気象条件によっては逆に気温が上昇する層が存在する。この層を逆転層という。

距離減衰式

音や振動のエネルギーの強さは、発生源から離れるに従って減少することから、発生源からの距離とエネルギーの減少度合との関係を示す式のことである。

エネルギーの強さ及び地表面の状況等により異なる。

計画ごみ質

ごみ質とは、ごみの物理的あるいは化学的性質の総称であり、通常、三成分（可燃分、灰分、水分）、単位体積重量、種類別組成、元素組成及び低位発熱量等でその性質を表示する。

計画ごみ質は、計画目標年次におけるごみ質のことであり、ごみ焼却施設の設計をするための前提条件となる排ガス量等の予測及びごみピット等の各種施設の仕様を決めるために必要な情報である。

景観

景色、眺め、特に優れた景色のことである。景観とは見る主体である人と、見られる対象である環境との視覚的關係であり、自然景観と文化景観に分けられる。

建設工事に伴う副産物（建設副産物）

建設工事に伴い副次的に得られる物を総称して建設副産物という。

資源有効利用促進法により規定される再生資源と、廃棄物処理法により規定される廃棄物の両方の概念が含まれている。

建設作業騒音

建設工事に伴って生ずる騒音のことである。

かなり大きな音を発生させる場合が多く、その工事が終わればなくなってしまいう一時的なものという意味では、他の騒音とは若干異なる。

光化学オキシダント

工場や自動車からの排ガスに含まれている窒素酸化物や炭化水素類が日光の中の紫外線を受けて光化学反応を起こし、生成される酸化性物質の総称のことである。

大気汚染に係る環境基準が定められている。

夏季の風が弱く日差しの強い日に、高濃度となる傾向がある。粘膜を刺激する性質を持ち、目やのどの痛み、植物を枯らす等の被害を及ぼす。

降下ばいじん

大気中に排出されたばいじん（燃料その他の物の燃焼または熱源として電気の使用に伴い発生するすすや固体粒子）や風により地表から舞い上がった粉じんなどのうち、比較的粒径が大きく重いために大気中で浮かんでいられずに降下するもの、あるいは雨や雪などに取り込まれて降下するもののことである。

高効率ごみ発電施設

従来のごみ焼却施設での発電よりも効率的な発電を求めていく施設のことである。

コドラート法

植物の調査で用いられる手法の一つで、地域、区画の植生の特徴が最もよく出ていると思われる場所に正方形の枠（コドラート）を設置して、その内側の調査を行う方法である。

枠の大きさは、調査対象の植生状況・地形等を考慮して設定する。

ごみピット

焼却施設に搬入されたごみを一時貯え、焼却能力との調整をとるとともに、攪拌によりごみ質を均一化するためのものである。

さ行

最大着地濃度

排出された汚染物質が地上に到着するときの最大濃度のことである。

色度

水中に含まれる淡黄色または黄褐色の水の色の程度を数値で示したものである。色度の上昇と有機物や鉄、マンガンの含有量に密接な関係があるとされている。

地盤卓越振動数

自動車が走行する際に発生する振動の大きさに影響を与える要因の一つで、地盤の固さの指標になり、振りが低いほどその地盤は軟らかく、高いほどその地盤は硬いとされている。

臭気強度

人間の嗅覚を6段階で数値化したものである。

臭気指数

悪臭防止法により定義されており、臭気を感知しなくなるまで希釈した場合の希釈倍数の対数を10倍した値のことである。

臭気濃度

臭気のある気体を、無臭の空気希釈し、臭いが感じられなくなった希釈倍数のことである。臭気濃度の対数を10倍した臭気指数をもとに悪臭の規制を行っている。

準備書

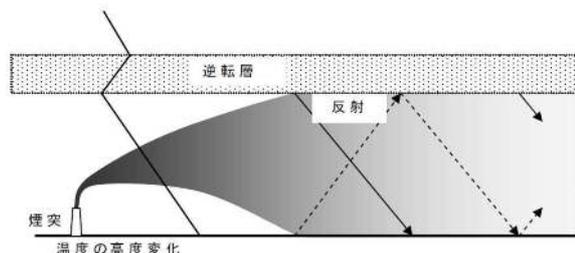
環境保全上の意見を聴くための準備として、調査、予測、評価、環境保全対策の検討結果を示し、環境の保全に関する事業者自らの考え方を取りまとめた文書のことである。

浄化槽汚泥

浄化槽法により設置された浄化槽は、し尿や生活雑排水などを処理する。この処理は、微生物などの分解する力を利用しているが、汚濁物質を分解しながら、微生物は増殖する。微生物は沈殿し、浄化された水は排出される。沈殿した微生物等の塊が汚泥（浄化槽汚泥）と呼ばれ、定期的に浄化槽から抜き取って、し尿処理施設に運ばれる。

上層逆転層

煙突上部に逆転層がある場合は、右図のように排煙が逆転層を突き抜けずに、排煙が逆転層より上方への拡散が妨げられ、蓋（リッド）があるような状態となり高濃度となることがある。



蒸発残留物

水の中に浮遊したり溶解したりして含まれている物質の総量を表したものである。

植生

ある場所に生育する植物のまとまりのことである。具体的には同じ植物のまとまりをさす場合、植物群落あるいは群落という。

植生自然度

植物の生育状況の違いによって、日本の植生を10の類型に区分したものである。市街地、造成地等の植生のほとんど存在しない地区を自然度1とし、植生の自然度が高くなるにつれて、数字が大きくなる。

植物群落

一定範囲の場所に生成し、互いに連関している植物の個体群全体のことである。

植物相

ある地域に生育している植物の種類組成のことである。

振動

工場の活動、建設作業の実施、交通機関の運行等により発生し、主に地盤から建物、人に伝わり日常生活に影響を及ぼす揺れのことである。

振動レベル

振動を評価する尺度の一つで、装置で測定した振動の強さを人間の感覚に合うように補正した量のことである。単位はdB（デシベル）である。

静穏

風速が0.4m/秒以下の風の状態をいいCalmと表すこともある。風がこのような静穏状態になると汚染物質は拡散せず滞留しやすくなる。

生活排水

台所、洗濯等の生活雑排水及びし尿のことである。

下水道や浄化槽などの処理施設を介して公共用水域に排出されるが、処理施設が整備されていない地域では、無処理で公共用水域に排出されることもある。水質汚濁の大きな原因となるため、施設整備が進められている。

生態系

生物と生物を取り巻く環境が相互に関係しあって、生命の循環をつくりだしているシステムを生態系という。

全窒素

T-Nと表記されることもあり、水中に含まれるアンモニア性窒素、亜硝酸性窒素、硝酸性窒素（無機性窒素及び有機性窒素）の総量をいい、窒素量で表したものである。

窒素は、リンとともに富栄養化の原因物質とされ、湖沼やダム湖等の閉鎖性水域での富栄養化を示す指標として用いられている。

全リン

T-Pと表記されることもあり、水中に含まれるリン化合物の総量をいい、リンの量で表したものである。

リンは、窒素とともに富栄養化の原因物質とされ、湖沼やダム湖等の閉鎖性水域での富栄養化を示す指標として用いられている。

騒音

騒音は好ましくない音であることから、ある音が騒音かどうかは人の主観的な判断により異なる。

そのため、ある人にとって好ましい音でも、他の人にとっては騒音と認識されることもあり、典型七公害の中では、地域住民からの苦情件数が多くなる公害である。騒音の発生源としては、工場・事業場、建設作業、自動車、航空機、鉄道などがあり、それぞれに環境基準、規制基準などが定められている。

騒音レベルの目安

騒音計で測定された測定値のことで、単位はデシベル（dB）である。



た行

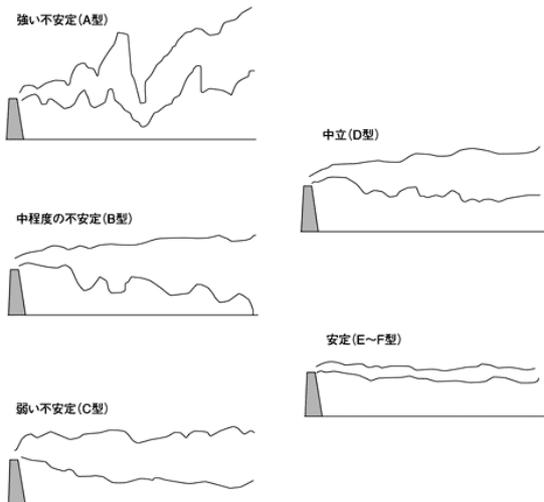
ダイオキシン類

ポリ塩化ジベンゾ-パラ-ジオキシン (PCDD)、ポリ塩化ジベンゾフラン (PCDF)、コプラナーポリ塩化ビフェニル (コプラナーPCB) をまとめてダイオキシン類という。大気、水質、水底の底質、土壤に係る環境基準が定められている。

大気安定度

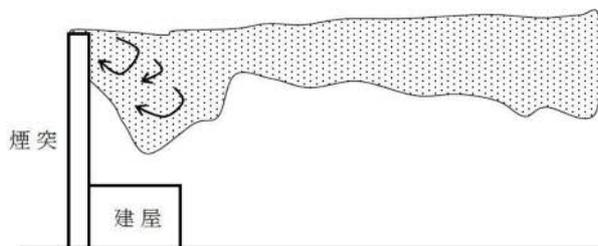
太陽からの熱射量や夜間における地球からの放熱量と風による気流の乱れを表す指標のことである。

大気安定度の指標は、拡散計算上、A～Fに分類され、Aはよく拡散する状態を表し（強い不安定）、Fは非常に拡散しにくい状態を表す（安定）。またB～Eはこれらの中間の状態を段階的に表す。



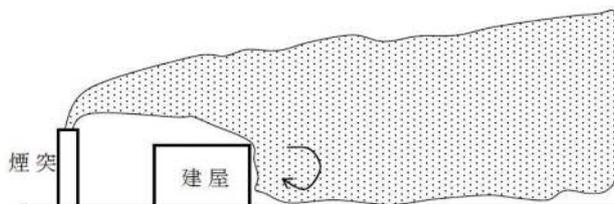
ダウンウォッシュ

強風時には、右図のように煙突自体の風下側に生じる渦に排煙が巻き込まれる現象が発生する可能性がある。この現象が生じると排煙による上昇がなくなり、有効煙突高さが低くなるため、地上濃度が高くなる可能性がある。



ダウンドラフト

右図のように、強風時には、近隣の建物影響により、風下側に生じる渦に排煙が巻き込まれ、煙が地上付近に到達することにより、地上で高濃度が発生する可能性がある。



地域の類型

例えば水質においては、河川、湖沼、海域ごとの利水目的に応じて数個の水域類型（ランク付け）を設定している。大気等においては、都市計画の用途地域等を参考としながら生活環境の保全上、望ましい環境を地域類型ごとに定めている。

窒素酸化物

NO_xと表記されることもあり、その代表として一酸化窒素（NO）と二酸化窒素（NO₂）がある。

窒素酸化物は、空気中で石油や石炭等の燃焼の際に必ず発生する。発生源で発生する窒素酸化物のほとんどがNOで、これが大気中に放出された後、酸素と結びついてNO₂になる。発生源としては、ばい煙発生施設等の固定発生源と、自動車等の移動発生源に分けられる。呼吸器系など人の健康に影響を与える物質として環境基準が定められている。

眺望景観

ある視点場（景観を見る地点）から眺められる景観のことである。通常はかなり広い範囲が眺望の対象で、遠景（遠くに見える景観）、中景（遠景と近景の中間に位置する景観）、近景（視点場の近くに見える景観）から構成される。自然公園においては、しばしば高台に展望台が設置されるが、これは眺望景観を楽しむためのものである。また、環境影響評価においても、景観への影響を予測・評価することとされているが、通常は該当行為が周辺の良い視点場からの眺望景観に支障をきたすか否かの観点から予測・評価される。

眺望点

不特定多数の人が集まる可能性のある公共的な場所で、事業実施区域を望むことのできる地点のことである。展望台、車道、歩道沿線等がこれにあたる。

低位発熱量

物質が完全燃焼する際に放出される熱量のうち、燃焼で生成した水蒸気の凝縮により放出される潜熱を含んだ熱量を高位発熱量、それを含まない熱量を低位発熱量という。

等価騒音レベル（L_{Aeq}）

騒音のレベルが時間と共に変化する場合、一定時間内に測定された多数の騒音データをエネルギー量で平均して何dBの騒音（定常音）に相当するか置き換えて表す方法のことである。

道路交通振動の要請限度

振動規制法において、市町村長は指定地域内における自動車振動を低減するために、測定に基づき、道路管理者等に意見を述べ、都道府県公安委員会に対して対策を講じるよう要請することができるとしている。この判断の基準となる値を要請限度という。

道路交通騒音

自動車の運行に伴い発生する騒音のことである。

道路交通騒音の要請限度

騒音規制法において、市町村長は指定地域内における自動車騒音を低減するために、測定に基づき、道路管理者等に意見を述べ、都道府県公安委員会に対して対策を講じるよう要請することができるとしている。この判断の基準となる値を要請限度という。

特定悪臭物質

悪臭防止法に基づいて指定される「不快なにおいの原因となり、生活環境を損なうおそれのある物質」であり、22種類の化学物質が指定されている。

特定施設・特定事業場

環境関係法令に基づく規制等の対象施設を特定施設という。
また、特定施設を設置する工場・事業場を特定事業場という。

な行

日平均値の年間2%除外値

環境基準による二酸化硫黄等の評価を判断する際に、年間にわたる長期的評価の方法として、年間にわたる1日平均値である測定値につき、測定値の高い方から2%範囲内にあるもの（365日分の測定値がある場合、高い値から順番に並べて、高い方から7番目までの測定値）を除外して評価を行っている。

日平均値の年間98%値

環境基準による二酸化窒素等の評価を判断する際に、年間にわたる1日平均値のうち、低い方から98%に相当するもの（365日分の測定値がある場合、高い値から順に並べて、高い方から8番目の測定値）で評価を行っている。

年平均値

測定値の1時間値をもとに解析・集計した結果を集計値といい、1日単位の集計値を日間値、1ヵ月単位の集計値を月間値、1ヵ年単位の集計値を年間値という。年間値のうち、平均を集計したものを年平均値という。

は行

排水基準

排水に含まれることが許容される有害物質等の濃度に関する基準のことである。

フィールドサイン法

糞や足跡などの動物の痕跡によって生息種を記録する方法である。

フォトモンタージュ

主要な眺望点等から撮影した写真上に、施設等の完成予想図を合成して景観を予測する手法である。現況の景観写真に新たに出現する施設のイメージを合成するため、将来の景観変化の状況を把握することができる。

浮遊物質

SSと表記されることもあり、水に溶けない物質のうち、直径2mm以下のものである。粘土鉱物に由来する微粒子や動植物プランクトン、有機物や金属の沈殿等が含まれ、水質の指標として用いられている。

浮遊粒子状物質

SPMと表記されることもあり、大気中に浮遊する粒子状物質で粒径が $10\mu\text{m}$ 以下のものと定義されている。また、気管に入りやすく、呼吸器系など人の健康に影響を与える物質として環境基準が定められている。

プラットホーム

ごみ収集車がごみをごみピットに投入する場所である。

プルーム式及びパフ式

大気の拡散予測式で、プルームモデルは有風時に多く適用され、移送・拡散の現象を煙流（プルーム）で捉え、風速や拡散係数などの拡散パラメータを一定であると仮定して、計算する簡易式のことをいう。この式の長所は、全国的に活用され、拡散パラメータに関する知見や情報が豊富に存在することが挙げられる。さらに、応用性もあり、汎用性の高い計算式として利用されている。

パフモデルは煙源から瞬間的に放出された煙塊（パフ）の拡散を示す式で、プルームモデルと同様に拡散係数が用いられ、時間の関数として表される。時間積分することにより連続発生源に対し適用でき、水平の風向・風速の変化などにも対応できるなど、複雑な気象条件にも対応可能となっている。年平均値の計算においては、発生源及び拡散場を一樣と仮定した簡易パフ式が無風時に適用されている。

ベイトトラップ

口が地表面に揃うように餌（糖蜜等）を入れたプラスチックコップを埋設し、餌に引き寄せられて落ち込んだ昆虫類を採集する方法である。

方法書

環境影響評価の方法を決めるため、現況を整理し、評価項目や調査方法等を記載する文書のことである。

ま行

猛禽類

ワシ、タカ類の総称のことである。

や行

熔融スラグ

焼却灰等の廃棄物を燃焼熱や電気から得られた熱エネルギー等により超高温（ $1,200^{\circ}\text{C}$ 以上）下で加熱、燃焼させ、無機物を熔融した後に冷却したガラス質の固化物のことである。

ら行

ライトトラップ

夜間に灯火に集まる昆虫類の習性を利用し、光で昆虫を寄せ集め、採取する方法のことである。

レッドデータブック

国際自然保護連合（IUCN）が世界各国の専門家の協力によって作成した絶滅のおそれのある種のリストや、生態、圧迫要因等を取りまとめたデータ集のことである。日本においても環境省が専門家の協力を得て、「日本の絶滅のおそれのある野生生物（日本版レッドデータブック）」が作られている。

ろ過式集じん器（バグフィルタ）

排ガス中の飛灰を円筒状のろ布に付着させて除去する装置のことである。

アルファベット

BOD

生物化学的酸素要求量のこと、河川の水質汚濁の一般指標として用いられている。水中の有機物質などが生物によって分解される際に消費される酸素量を示したものである。酸素要求量が大きければ、有機物質量が多く、汚濁が進んだ状態と考えられる。

COD

化学的酸素要求量のこと、湖沼や河川の水質汚濁の一般指標として用いられている。水中の有機物質を、過マンガン酸カリウム等の酸化剤で強制的に酸化させた際に、消費される酸素量をmg/Lで表したものである。酸素要求量が大きければ、有機物質量が多く、汚濁が進んだ状態と考えられる。湖沼ではプランクトン等の呼吸作用の影響を受けやすく、海域では塩分の影響を受けるため、BODではなく、CODで測定が行われる。

Nm³

温度0℃、1気圧における気体の体積を表す単位のことである。

N値

地盤の強さを示す指標で、N値が大きいほどその地盤は強固である。中高層建築物の基礎は、一般にN値30～50以上を支持層としている。

pH

水素イオン濃度のこと、ペーハー又はピーエイチと読む。水溶液の性質として、酸性・アルカリ性の程度を示す単位のことをいう。

ppm

100万分のいくらかであるかという割合を示す単位であり、主に濃度を表すために用いられる。

SS

浮遊物質のことで、水に溶けない物質のうち、直径2mm以下のものである。粘土鉱物に由来する微粒子、動植物プランクトン、有機物及び金属の沈殿等が含まれ、水質の指標として用いられている。

都市計画決定権者

東 広 島 市 〒739-8601 広島県東広島市西条町栄町 8 番 29 号
都市部都市計画課
TEL 082-420-0954 FAX 082-421-3233

事業者

広島中央環境衛生組合 〒739-0022 広島県東広島市西条町上三永 766 番地 1
施設整備課
TEL 082-426-0916 FAX 082-426-0674